

作成 2019年5月7日 (第1版)
更新 2019年10月2日 (第2版)

VBの安全性

VBの安全性は、第三者機関による試験によって認められています。
急性経口毒性や皮膚や目への刺激性等もなく、肌の弱いお年寄りやお子様にも安心してお使いいただけます。

急性経口毒性試験

VB水溶液を検体としてマウスを用いる急性経口毒性試験(限度試験)を行った。

試験方法 検体投与量として2000 mg/kgを投与する試験群及び、溶媒対照として注射用水を投与する対照群を設定し、各群につき雌雄それぞれ5匹のマウスを用いた。体重を測定した後、試験群には試験液、対照群には注射用水をそれぞれ20 mL/kgの投与容量で胃ゾンデを用いて強制単回経口投与した。

結論 雌雄ともにいずれの投与群においても、観察期間中(14日間)に死亡例は認められなかった。また一般状態、剖検所見においての異常は認められず、体重変化にも差は見られなかった。マウスを用いる単回経口投与において、検体のLD50値は雌雄ともに2000 mg/kgを超えるものと評価された。

実施機関 一般社団法人日本食品分析センター

皮膚一次刺激性試験

VB水溶液を検体として、ウサギを用いる皮膚一次刺激性試験を行った。

試験方法 各試験動物の体幹背部被毛を試験の約24時間前に剪毛した。試験動物1匹につき、2箇所には真皮までは達しないように角化層に井げた状のすり傷を付け(有傷皮膚)、他の2箇所を無処置(無傷皮膚)の対照とした。ガーゼパッチに検体0.5 mLを均一に塗布し、ウサギ3匹の無傷及び有傷皮膚に24時間閉鎖適用した。適用時間は24時間とし、その後パッチを取り除き、適用部位を注射用水で清拭した。

結論 除去後1時間に1例で非常に軽度な紅斑が見られたが、24時間に消失し、その後刺激反応は見られなかった。2例については、無傷及び有傷皮膚で観察期間を通して刺激反応は見られなかった。ウサギを用いる皮膚一次刺激性試験において、検体は「無刺激性」の範疇に入るものと評価された。

実施機関 一般社団法人日本食品分析センター

眼刺激性試験

VB水溶液を検体として、ウサギを用いる眼刺激性試験を行った。

試験方法 各試験動物の両眼の前眼部を試験開始当日に検査し、異常のないことを確かめた。点眼5分前に、各試験動物の両眼に局所麻酔として0.4 %オキシブプロカイン塩酸塩を1～2滴点眼した。ウサギ3匹の片眼に検体を0.1 mL点眼し、他眼は無処置の対照とした。

結 論 点眼後1時間に全例で眼瞼結膜の発赤、加えて2例で眼球結膜の発赤が見られたが、3例ともに24時間に消失し、その後刺激反応は見られなかった。ウサギを用いる眼刺激性試験において、検体は「無刺激物」の範疇にあるものと評価された。

実施機関 一般社団法人日本食品分析センター

VB
LB
VIRUS
BLOCK